

2009年度 早稲田大学大学院教職研究科入学試験

(特別選考入試 (第二次日程) : 小論文)

問題用紙

注意事項

1. 問題冊子および解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は、2ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 受験番号および氏名は、試験が開始されてから、解答用紙の所定欄に正確に記入すること。なお、解答用紙が複数枚ある場合には、それぞれの所定欄に正確に記入すること。受験番号は以下の例のとおり、数字で記入すること。

(例) 11001 番 ⇒

万	千	百	十	一
1	1	0	0	1

4. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
5. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答を止め、筆記具を置くこと。終了の指示に従わずに解答を続けた場合は、答案の全てを無効とするので注意すること。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

小論文注意

1. 解答は横書きとし、楷書で左から右へ書くこと。
2. 句読点、記号等、および改行のために生じる余白もすべて字数に含む。また、解答用紙の字数を超えて解答してはいけない。
3. 本文中に自分の氏名を書かないこと。
4. 小論文解答用紙は汚したり、折りまげたり、破ったりしないこと。
5. 下書きは、別に配付の下書用紙を使用すること。試験終了後、下書用紙は持ち帰ること。

以下の論題1と論題2のいずれかを選択し、1200字程度（1100字～1300字）で解答してください。なお、選択した論題番号を該当欄に記載すること。

論題1

学校教育活動の場においても、情報化社会の進展とともに「個人情報」の流出をはじめとして様々な事故が発生し、「危機管理」のあり方が厳しく問われています。しかし、たとえば、時代が変わろうとも、次のような事例は今なお、起きています。

学校の、ある教科指導で、備え付けの教具を使って実験・観察を行っていたところ、児童（生徒）が指を深く鋭く切った。病院で手術を受けたが、その後も長期にわたる治療を受けなければならなくなった。さらに、医師の診断では、指を元のような状態に戻すのは難しいということであった。

学校教育で、私たちは、担当する教科（科目）を含め、実技、実験、観察、実習、あるいは作業をともなった様々な教育活動を行ってきました。

あなた自身は、どのように注意を払いながら、「実りのある指導」の実現に取り組んできましたか。「活動計画の立案・準備」、「その展開」、「活動のまとめ・改善の道筋」の各段階を念頭において、具体的に述べなさい。

論題2

児童（生徒）が「自分に自信を持ち、お互いを誇りに思い合い、必要とし合う」という気持ちで学校生活を送っていくようになれば、児童（生徒）一人ひとりの心や活動にも余裕が生まれてきます。

児童（生徒）が「自信と余裕」を持ち、さらにみずからそれを育てていくという活動を指導・支援していくことは、学校教育にも、強く求められています。

このことについて、あなた自身は、自校^(注)の学校教育活動において、これまで、どんな領域（地域連携、ボランティア、総合的な学習の時間、教科指導、特別活動、職場体験、生徒・進路指導など）を通じて、何を「ねらい」として、どのように取り組んできましたか。

取り組みにおける「工夫」「苦心」「児童（生徒）の変容」や「今後の課題」を含めて、具体的に述べなさい。

(注) ここで言う「自校」とは、現任校もしくは直近の勤務校を指しています。